

図書館・創世ホールトイレ改修工事について

～トイレの改修工事を行います～

和式から洋式への変更、自動水栓化、照明等センサー化など行い感染防止対策強化と利便性を高めます。

下記の通り順次工事予定です。

- ① 3階多目的ホールトイレ多目的トイレ：8月中旬完了
- ② 2階トイレ：8月8日ごろ～8月末頃
- ③ 1階図書館内トイレ：8月下旬～10月中旬

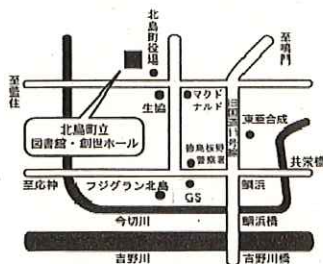
使用できない期間、別の階のトイレをご使用ください。利用者の皆様には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力いただけますようお願い申し上げます。予定は変更になる場合があります。ご了承ください。

※創世ホールに来場される方へ※

▼入場される方には、マスクの着用と手指のアルコール消毒をお願いいたします。

▼観客同士の距離を一定の間に保つため、3階多目的ホールの座席数を減らしております。(前後左右を1席空けてお座りいただくようにしております)

■なお、今後の感染症拡大状況に応じて、対応を変更することがあります。ご迷惑をおかけしまして恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



江富久雄子ども写真展



8月19日(金)～21日(日)
午前10時～午後5時

会場：2階ギャラリー

入場無料

主催：江富写真館

(☎088-698-6888)

第9回松岡貴史&みち子作品展

小川明子、加来徹が歌う
新作日本歌曲コンサート—徳島公演—

8月30日(火)

開場：午後6時00分

開演：午後6時30分

会場：3階 多目的ホール

入場料：(全席自由) 3,000円

演奏 小川明子 (アルト) 加来徹 (バリトン)
松岡貴史 (ピアノ) 松岡あさひ(ピアノ)

チケットの販売

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード:217705

北島町立図書館カウンターでも購入できます。

その他取扱：黒崎楽器(本店 088-653-6614・阿南センタ

ー・鳴門センター・ユニスタイル藍住)、平惣全店

チケット予約・お問い合わせ 090-6283-4670 (松岡)

主催：「松岡貴史&みち子」

後援：特定非営利活動法人 日本現代音楽協会

一般社団法人 日本作曲家協議会

東京藝術大学音楽学部同声会

「南海トラフ巨大地震に備える!!」

パネル展

9月6日(火)～13日(火) 午前10時～午後6時

会場：2階ギャラリー 入場無料

■震災の記録や教訓を次世代に伝えるとともに、高速道路が果たす役割を広く紹介。

主催：国土交通省四国地方整備局

徳島河川国道事務所計画課

徳島県国土整備部高規格道路課

お問い合わせ：

北島町危機管理課 (088-698-9807)

来て見て楽しむ いけばな池坊 巡回講座

9月25日(日)

午前11時30分開場 午後0時30分～午後3時30分

第1部「Let's生花」 第2部「Let'sいけばな」

会場：3階多目的ホール

お問い合わせ：(宮内 088-698-4221)

主催：池坊中央研修学院

主管：池坊徳島支部



追悼★吉田文夫さん(下)

アイルランド音楽演奏界の重鎮を偲ぶ

●小西昌幸(元北島町立図書館・創世ホール館長)

■2010年以降の吉田文夫さんの大きな功績として「ケルトシットルケ(CELTSITOLKE)」というオムニバス盤(CD)の企画制作と、同名コンサートの連続開催が挙げられる。「ケルトシットルケ」は、関西風の脱力系ダジャレが入ったネーミングが絶妙だ。これはCD発売元(販売流通)の有限会社ビートショップの水谷昌博さんのパートナー、水谷文美(フミ)さんの命名と聞いている。「ケルトシットルケ」のオムニバス盤は、今のところ、スタジオ録音盤6枚(VOL.1~VOL.6)、ライブ盤(「CELTSTITOLKE LIVE てんこもりJAM」)1枚が出ている。今秋、「ケルトシットルケVOL.7」が発売予定。■ケルトシットルケ・コンサートは、2011年から毎年初夏(5月か6月)に神戸市の三宮にある神戸電子専門学校(神戸ソニックホール)で開かれていた(2018年まで)。これは、ビートショップの水谷さんが同校の講師を務めておられたご縁で、学校側に上手に提案し、学生たちの舞台音響や照明技術の実験実習させるという位置付けで、会場費などがかからないような活用をされていたと思う。舞台まわりの会場設営や、音響機材のセッティングなどが学生たちの実践研修として役に立つという考えである。演奏会の企画者側としても会場費等の面でメリットがあり、専門学校〜ホール側としても学生の実践学習という面でメリットがあるわけだ。こういうことは各地でもっともっと柔軟になされてよいと、私は思う。

■吉田さんと水谷さんのお二人のプロデュース力は、とても高いものがあった。関西地区において、まぎれもなく、豊かなアイルリッシュ〜ケルト音楽文化を提供する機会を大きくもたらした。断言しておくが、東京でもこの種のこと(幅広い音楽家の交流や発表の場の提供)は成されていない。だから彼らは、日本のために大きなお仕事をされたのだと私は考えている。

■コンサートは、2019年からは、西宮市甲東ホールで毎年秋(11月)に開かれるようになった。2020年もコロナに負けず、客席を少し減らして、開催していた。私はもちろん応援のために出かけた。

■資料としてケルトシットルケのCDの発売年月日と、同名演奏会の開催年月日を掲載しておく。

【ケルトシットルケ録音媒体=CD 2010年から】

◎ケルトシットルケVOL.1〜関西ケルト/アイルリッシュ・コンビレーションアルバム 2010年12月8日

◎ケルトシットルケVOL.2 2011年12月7日

◎ケルトシットルケ・ライブ てんこもりJAM 2012年12月5日 *2011年5月11日と2012年5月13日に開催したライブの音源を使用

◎ケルトシットルケVOL.3 ザ・ケルティック・ハーツ・クラブ・バンド 2013年6月17日 *このアルバムで初めて「ノース・アイル・タウン」(坂上真清氏が北島町に捧げた、軽快で美しい曲)が音源化された。

◎ケルトシットルケVOL.4 2015年6月17日

◎ケルトシットルケVOL.5 2017年6月21日

◎ケルトシットルケVOL.6 2019年11月6日

*全て制作=グレン・ミュージック、発売=備ビートショップ。VOL.7が2022年秋発売予定。

【ケルトシットルケ演奏会 2011年から 神戸ソニックホール、西宮市甲東ホール】

◎2011年5月15日 ケルトシットルケCD発売記念ライブ 神戸ソニックホール

◎2012年5月13日 ケルトシットルケ てんこもりジャムVOL.2 ソニックホール

◎2013年6月2日 ケルトシットルケ てんこもりジャムVOL.3 ソニックホール

◎2014年6月15日 ケルトシットルケ てんこもりジャムVOL.4 ソニックホール
◎2015年6月21日 ケルトシットルケ てんこもりジャム2015 ソニックホール
◎2016年6月26日 ケルトシットルケ てんこもりジャム2016 ソニックホール
◎2017年6月25日 ケルトシットルケ てんこもりJAM2017 ソニックホール
◎2018年6月24日 ケルトシットルケ てんこもりJAMファイナル ソニックホール
*神戸ソニックホールでの開催はこれが最後になった。翌年からは、西宮市甲東ホールが関心を示し、後を引き継ぐことになる。開催時期は秋に移行。

◎2019年11月10日 ケルトシットルケ VOL.6 発売記念コンサート てんこもりセッション2019 西宮市甲東ホール

◎2020年11月8日 ケルトシットルケ てんこもりセッション2020 甲東ホール

◎2021年11月7日 ケルトシットルケ てんこもりセッション2021 甲東ホール

■以下、思いつくままに吉田さんとの思い出を綴っておく。

■1990年代中頃のことだが、関西の音楽家ユニオンが発行した冊子が町に送られてきていて、それにシ・フォークが掲載されていた。その冊子は、音楽家ユニオンが、関西の自治体に音楽の企画立案時の参考にして欲しいという意向で各自自治体に向けて送付されたものだったのではないかと思う。その写真では吉田さんはブズーキか何かを手にしていたと思う。

■滋賀県高島市(当時は高島町だったかもしれない)でのザ・チーフタンズ(ザ・チーフテンズ)のコンサートに、川竹道夫さんご一家と一緒に出かけるとき、曲の合間に「この会場に、もしかしたら吉田文夫さんもいるかもしれないねー」などと、小さな声で雑談していたら、ひとつ前の席の人が振り向いて、それが吉田さんだった。私達は、大笑いした(演奏会場なので声をたてずに笑った)。情けないことだが、これが一体何年何月だったかが判然としない。招聘事務所であるブランクトンのHPなども調べて来日歴やツアー先の表なども見てみたのだが、どうもよく分からないのだ。

■吉田さんから、兄上が自費出版されたという詩集をお送りいただいたこともあった。正方形に近い、特殊な判型の本だった。自らの取り組む表現を大切にすぐ兄弟だったのだと思った。

■2012年9月15日に私はダンスリー・ルネサンス合奏団の40周年記念コンサートをみるために、徳島から出かけた(ダンスリーは二回北島町で公演しており、私は交流があった。ときどき演奏会の招待券をいただいた)。会場は、阪急西宮北口駅からほど近い、兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホールだった。吉田さんに事前に連絡すると氏は、西宮北口駅のすぐ近くのアイルリッシュ・バブのことを教えてくださり、ダンスリーの演奏会の後出かけて合流したのだ。氏はそこで定期的に演奏をしていたのだ。

■その他にも、何かの用事で関西方面に出かけて神戸市内で宿泊するような折に、氏にあらかじめ連絡を取っておいて、どこかで合流し、注文していたアイルランド音楽のCDを買わせていただいたことがあった。吉田さんは、グレン・ミュージックというアイルランド等からの輸入楽器を扱う事務所を運営しておられて、アイルランド音楽の楽器やCDを扱っておられた。時々買わせていただいた。あるとき、イリアン・パイプスの音色に非常に興味を湧いていた頃、その楽器を中心にしたアルバムを見繕(みつくる)って下さいとお願ひしたら、ちゃんとご用意して下さいました。

■北島トラディショナル・ナイト・シリーズでは、確か吉田さんに、駐車場整理係をお手伝いいただいたことが一度あった。彼は出演者ではなく、ローディ(運転手)として来ていたので、お願ひしたのだ。たぶん坂上さんのユニット、ハンドリオンの時(2010年10月17日)だったのではないか。

■楽器の輸入で、ひんばんにトラブルがあってというこぼれ話も、グレン・ミュージックのブログで披露しておられた。輸入したコンサーティーナの音階がおかしく、修復しようとしたがリードが完全に固定されていたので、

空港便でイタリアに送り返したが、その送料等は戻ってこないことが多い、という趣旨のことをお書きになっている。北島町のコンサートではティン・ホイッスルをたくさん並べて販売したことがあった。また、シ・フォークのカセット・テープを販売したことも(シ・フォークⅢ)。50本だか100本だかを(追加)発注したんですよ、とおっしゃっていた。

■アイルランド音楽の演奏家は、とても気軽に、気の合う音楽家とセッションをしたり、ユニットを組むことがよくある。吉田さんは、スキップス(Skips)という歌(マウス・ミュージック)主体のユニットを組んでおられたことがある(ケルトシットルケVOL.4に収録)。吉田さん以外の3人は女性で、2015年のソニックホールでのコンサートのとき、曲間のMCで、吉田さんは、ほりおみわさんから「吉田さん、スキップできますか? 今ここでやって見せてくださいな」という趣旨のことを言われて、スキップをさせられていた。場内のいたるところで、くすくす笑いが発生して会場が非常になごみ、温かいものになったことは、言うまでもない。

■古い「創世ホール通信/文化ジャーナル」をみると、2003(平成15)年5月号に、通算百号記念のメッセージをいただいていた。この号には、小松崎健さんやサエキけんぞうさんや種村季弘さんから頂戴したメッセージを掲載している。吉田さんのメッセージを以下に掲載する。

【百号記念メッセージ◎小西さん、通信百号おめでとうございます。創世ホールで、北島トラディショナル・ナイトの第1回目、2回目に出演させていただきありがとうございました。こちら関西でも無名の私たちに、97年第1回目のライブ当日は、ホール満員のお客さんが来られて大変驚きました。まだ世間あまり知られていなかった、アイルランド音楽の催しを何とせよ成功させようと孤軍奮闘されている小西さんの情熱がこちらにも伝わってきて、私たち(シ・フォーク)にとっても節目になるようなコンサートを行なうことができたと思っています。7回目になる今年まで、ずっとこのシリーズを続けてくださっていることにも、愛好者としても頭が下がります。あれ以来、陰ながらずっと応援しております。また何かお役に立てる機会があれば嬉しく思います。★吉田文夫(ポタン・アコーディオン奏者)】

■シ・フォークの自主制作LPには、柴山伸二、須山久美子、津山篤、岡野太といった関西アンダーグラウンド・シーンの人たちがレコーディングのお手伝いをしている。紙幅の関係で詳しく書く余裕がないが、それらの人たちは、皆、後に海外で有名になったり、根強いファンを持つ音楽家だ。

■何年か前に、吉田さんがガンを発症されたと聞き、随分心配した。それでも吉田さんは、ケルトシットルケ・イベントには、ずっと参加されていた。抗がん剤治療で、身体がしんどいことがあるので、大きな催しを控えたときには、治療(抗がん剤投与)の時期を調整されていたようだ。

■最後にお会いしたのは、2021年11月7日(日)のケルトシットルケのときだった。吉田さんは、いつものように司会役として登場し、津山篤さんと長野友美さんのデュオのゲストとして、演奏された。催しの後、ロビーで挨拶すると、津山さんが『「ハード・スタッフ」知ってますよ、ソロで近い内に徳島に行きますよ』とおっしゃって私はうろたえた。吉田さんには元気でいてくださいな、としか話してないと思う。3人が並んだ写真を1枚だけ、撮影した。これまで同様、またいつでも会えると漠然と考えていたから、これが最後になるとは思いもよらなかったのだ。

■吉田さん、今年の《北島トラディショナル・ナイト》は、10月30日に《みわくのみわけん》(ほりおみわ+小松崎健)をお招きするんですよ。その告知資料などには、【この催しを、2022年7月22日にケルトの神々の世界に旅立たれた吉田文夫さんの魂に捧げる】と記す予定です。また、お会いしましょう。そのときまでさようなら。(20220808脱稿 小西昌幸)

